

## ◆映画に関するご感想◆

### <患者の立場からの意見>

- ・チェロの音のすばらしさを初めて感じた。自分が末期になったときにどう過ごすか、自問しながら映画を観ていました。人生は縁と縁でつながっているのか？
- ・観たいと思っていた映画でした。がんとどう向き合い自分を知るかが大事と感じました。感動でした。勇気をもらいました。
- ・素晴らしいチェロの演奏の中で、がん（末期）と向き合う姿が5円玉というご縁を通してどう人として生きていくかが感動を与えられた。
- ・よく見ます「がん」の方の映画、でも自分はあるほどがんばれないなあって感じていましたが自分なりに生きていこうと思いました。
- ・自分らしく生きるとは自分なりに考えてきましたが映画の山ちゃんの生き方で後押しされたような気持ちになった。がんと言われ手術を受けてから人生は有限だと思い知った。丁寧にいきでゆこうという決意を新たにしています。
- ・ガンと向き合うということだけでなく人としてどう生きていくか・・・ドキュメンタリーとして素晴らしい映画でした。他人から何かを受け取るだけでなく自分が何をすることが大事だと感じました。「ご縁」「大地の子」印象的なことばでした。

- ・山ちゃんエリックさんまだそれぞれにつながる人たちの人間性、共感、いろいろな事に圧倒されました。この上映を観て自分を振り返ったらこれからの生活を考えたいと感じました。
- ・チェロを核に山田さんエリックたちの人間のつながりがすばらしいと感じました。エリックの奏でるチェロの音色に子供たちやホスピスの患者の皆さんが自然に涙する姿に音楽の不思議な力を感じました。そこには山田さんエリックの人間としての愛があるからこそですね。
- ・緩和ケアの大切さ、痛みをとり自分の本当のしたいことを見つけることができたこと。山ちゃんけんちゃん子どもたちとつないだエンを感じ映画を観終わった時「ありがとう」という言葉が心に浮かびました。
- ・音の使い方が素晴らしい映画でした。腹のそこに響くようなチェロの調べが通奏低音のように前編をながれ芸術性の点でもかなりレベルの高い映画だと思いました。“山ちゃん”のとても自然体でも毎日毎日をていねいに生きている姿がとても印象的でした。エリックによって「施設に行く自分」に新たな意義をみいだせた山ちゃん、山ちゃんによってこれからの人生の指針を見つける旅にでたエリック「ご縁玉」のタイトルがぴったりしたシーンでした。
- ・日本の原風景の下チェロの演奏がとても心にしみました。改めて死に向き合うのではなく、生を全うするがん医療が大切と感じました。
- ・山田泉さんとエリック氏との出会い交流によっていろいろな出会いの場面をみてとても感動しました！！心と心の結び目（ご縁）を感じました。今日は観にきてよかったです。私もエリック氏のコンサートを聞きにいきたいと思いました。
- ・山ちゃんのような社会貢献はできないが自分の患者の経験をどこかで生かしたいなあと思っています。
- ・朝日新聞の記事が添付されているので、山田泉さんとエリック・マリア氏の出会いから来日するにいたる経緯が分かりましたが、映画だけをみるとエリック・マリア氏のはるばる大分までやってきた動機がよくわからないのでその点が残念な気がします。がん患者である山田さんがエリック・マリア氏にたくさんものを伝えていることがすばらしいと思いました。
- ・とても良い映画でした。ホスピスの方々がエリックさんの演奏を聴き涙する姿。生きている間の幸せとは感動とは考えさせられました。
- ・やさしい感情とは言語の壁を容易に乗り越える。
- ・しんぶんて読んで知っていたのですがみる機会にめぐまで大変幸せです。ドキュメンタリーとして単にとながれていく情景とチェロの演奏が心に響きました。
- ・ずっとみたかったので、山ちゃんと出逢えた気がしています。
- ・限りある命の時間をどのように過ごすか再び考えさせられました。何かの縁によってつながる人間関係はすごい、自分にできることって、なんだろう？
- ・素晴らしい映画で本当にたくさんの人たちに観てもらいたいと思いました。ご縁玉が結ぶ人とのつながり（患者でも養護の子供たち、他家族近隣の人々）が幸せを運び生きていく活力になれる。人間通しの触れ合いってほんとにいいのもですね。
- ・私は病後6年ですが山田さんの自分がつらい状況にあっても積極的に多くの人にかかわりいろんなことを分け与えるという生き方に深く感銘を受けました。この映画は看護師だけでなくできる限り多くのがん患者にもみてほしい、生きる力が得られると思います。
- ・人と人をつなぐ「ご縁」の不思議さや人を動かす心のパワーを感じられた素晴らしい映画でした。エリックマリア氏だからこそ伝えられる音楽の癒しの力や山田泉さんのひたむきにいきようとする姿勢に心を打たれました。

#### <患者の家族・友人の意見>

- ・「がん」という病気だけでなく“命”に対して正面から取り組む姿勢がすばらしい。

映画のなかでも語られていますが人との関わりは様々な御縁からではないか。その縁を大切に人の為に自分は何ができるのかと考えられました。

- ・その人らしい生き方その人らしい最期の迎え方・・・。「本当は自分さがしなんて必要ないのかも知れない、またわからなくなった・・・」印象にのこりました。
- ・チェロの音色が体の中にしみわたり進行がんで急死した友人と残された家族に思いをはせていました。いくつだったら「まだ若いのに」と言われなくなるのか。天寿を全うすることの難しさをあらためて考えました。

#### <医療関係者からの意見>

- ・病院では見ることができない患者さんの生き方を見ることができたと思う。ターミナル期にある患者さんにとって一分一秒、一瞬一瞬がとても大切ですすべてのことが患者さんにとって意味があることだと感じた。

身体的なことや、精神的なことなどで辛いことはたくさんあると思うが映画の中の山田さんはとても明るく笑顔の絶えない女性だった。山田さんの強さ山田さんを支える家族や友人の方々など山田さんと縁のあるかたがた野津所為絆の上になりたっているのだと思った。

この映画ではがん患者さんの在宅での生き方社会の中の一人であるということがよくわかった。山田さんとエリックマリアさんの御縁つながり絆に感動しました。

- ・がんの映画というより人と人とのつながりの大切さを感じた。山田さんが人を癒しそして癒されていることもわかった。川上さんとおなじくNSとしてふりかえることを感じた。
- ・患者さんのりあるな生活をみせていただくことで患者さんがその人らしくあることの手伝いを少しでもさせていただけるとような看護師になりたいと思った。

山ちゃん、ケンちゃん二人の思いがたくさん詰まった映画だと感じました。言葉は通じにくいけれども相手を思いやり役に立ちたいもっとお互いのことを知りたい伝えたい、、音楽や人との出会いからそういう気持ちが伝わってきました。「その人らしく生きる」ってなんだろうと問い続けていきたいと思います。

- ・がんだから・・・病気だから・・・患者さんだから・・・という視点ではなく人としてどう生きていくのか何を大切にしていくのかそんなことを考えさせられるとても良い映画でした。チェロの音色もとてもよかったです。
- ・演技ではない生の声体験が見れてよかった。
- ・山ちゃんがケンちゃんとの出会いその縁を通してケンちゃん子供たち、いろいろの人々の出会いがあってそれをつないでいくのは山ちゃん。一日一日を大切に過ごしていくことが大切だと思いました。
- ・看護学生として、がん患者さんが家族とともにその人らしく生きる姿、今まで生きてきた思い出をゆっくり思い出しながら大切に作る姿そういう様子を大切にしなければいけないと改めて勉強になりました。それとともに山田さんが映画の中のように笑って歩くために、緩和ケアの知識・技術を高めていく必要性を実感しました。「その人らしく」を学ぶ非常に良い映画だと思いました。
- ・残された時間をどう生きるかがん患者に限らず生きている人全員がここに留めながら毎日を過ごすようになれば、山ちゃんさんのような時を過ごせるのにと感じました。山ちゃんさんはがんとう向き合うことがそのきっかけとなりましたが（エリックさんはその生育歴から）NSとしてできることは、がん性疼痛を可能な限り緩和するサポートをし正面から心静かに人生と向き合う時間を確保することなのかなと感じました。
- ・友人・知人の患者さんとの接し方をうまく言えませんが、教えてもらったような気がした。
- ・自然体で、無理に励ましたりしない、私の心の中には明るさが残ったような印象です。

- ・ 実際の映像を見て、真実の声を聞き、涙を見たように思いました。自分が今後看護師として、何ができるのか、また、がんになるかもしれない人間として何ができるかを深く考えさせられています。
- ・ ドキュメンタリーということで、がん患者のリアルな様相、経過を知ることが出来、感銘を受けました
- ・ 感動しました！職場の多くの仲間に見せたいです。看護師さん達にたくさん見せてあげてください。

#### <医療関係企業からの意見>

- ・ とても素晴らしい映画でした。心が動かされました。  
この映画を「がんに興味のない方」がハサードなく見ることができるような方法がないか…、と考えてしまいました。
- ・ 見に来て大変良かった
- ・ 命について、新たに考えを深めた。五感に訴える映像構成が言葉を越えたものを伝えてくれた

#### <メディアからの意見>

- ・ 多くの人に観てほしい。高校等の教育現場でも、観てほしい。
- ・ じわじわと、心揺さぶられる映画でした。生きるとはどういうことか、考える時間をいただきました。けんちゃんの孤独を感じました。だからこそ、山ちゃんとの縁を大切にしたいのだと感じました。
- ・ 取材対象者を通して、生きることや死ぬ事などを強く感じることでできる作品であった。看護学生に向けたコンテンツとして適していると思います。

#### <その他からの意見>

- ・ 医療だけでなく、一を精神的に、心の支えとなって死ぬまでの時の流れをサポートする、非常に重要な仕事、言葉を変えるならば人に対する愛情を持った接し方であると改めて感じられる非常に良い映画でした。
- ・ 圧倒的なチェロの響きと、画面に登場する人々の厚み、作品全体を通して、何か夕映えのような、温かく少し心細い、しかしきつと安らいでいようとする生命の力強さ、はかなさ、きらきらしたものの粒子が舞っているように感じました。
- ・ 上映していただき、ありがとうございました。山ちゃんは「いのちの授業」と、この「ご縁玉」が続いていると思います。映像で表現してくれて、感謝。
- ・ 大変面白かった。山ちゃんが亡くなった後、今年もけんちゃんが大分を訪れてくれることがわかり、ご縁玉パワーはすごいと思った。Thank you!
- ・ とても感動した。私の妻も、山田泉さんとほぼ同じ年齢で、乳がんで亡くしています。人生の最期に、何ができるのか、ということについて、真剣に考えている山田先生の姿に心を打たれました。エリック・マリアのやさしさは素晴らしい！自らの出自に対する深い思いが、彼の素直な行動に表れているのだろう。チェロの響きは、生きるための鼓動である。
- ・ 残された時間をも人のために自分の時間を使いたいと思ったという山ちゃんのお考え方に感動しました。
- ・ 映画全体に、温かい心のぬくもりを感じました。若い人たち、子供たちにこの映画を観てもらいたいと思いました。
- ・ 内容はもとより、音楽、映像、どれをとっても素晴らしかったと思います。大変良かったです。